

13 番 八重樫龍介です。

通告に基づきまして次の事項についてお尋ねします。

本町の人口は、9,000 人を割りこみ、高齢化率は約 45%と超少子高齢社会に突入しました。このような状況のもと先日の施政方針演述において町長は、2 期目の公約として、台風災害からの復旧の完遂と復興の推進を重点に、持続可能なまちづくりを町民の皆様とともに創造したいとの思いで、全力で町政に取り組んできており、町の発注工事についてはほぼ完了したと述べています。

そして、今後はハードの復旧からにぎわいの創出、関係人口の拡大による地域の活性化へとつなげていく段階に移ってきているとも述べています。

昨年 11 月に総務常任委員会で視察した青森県の田舎館村は、職員のアイデアから「田んぼアート」で有名になり、新型コロナウイルス感染症の発生に伴う行動制限前は平成 28 年度の約 35 万人を最高に毎年 25 万人前後の観光客が訪れています。

本町の観光の核となる龍泉洞であります、入洞者数は

1985年度の約47万人を最高に減少に転じ、令和4年度はコロナ禍からの回復傾向はみられるものの1月末現在で約13万7千人の入洞者数にとどまっています。今後は、交流人口の拡大及び町内での滞在時間を増やす様々な取り組みが必要であると考えます。

JR岩泉線は、平成22年7月31日大川の土砂崩壊による脱線事故により、残念ながら平成26年4月廃線となり、岩泉駅から浅内駅付近までの線路が町に無償譲渡されました。

そこで、観光スポットのひとつとして、昨今の鉄道ファンの増加により交流人口の拡大が期待できる、旧JR岩泉線の駅舎などを活用すべきと思いますが、町長の所見をお伺いします。

龍泉洞から清水川を經由しうれいら通り商店街、さらに駅舎までの案内図を作製し、自転車の利用者に配布する。駅には列車を配置し休憩所として活用してもらうなど、さまざまなアイデアにより交流人口の拡大及び滞在時間の延長を見込むことが出来ると考えます。町長の所見をお伺いします。

また、岩泉駅から浅内駅間は約7.8km、その2倍15.6kmのレールは鋳造して鉄瓶や文鎮に加工し、龍泉洞の売店など

で販売、他にもふるさと納税の返礼品にするなど方法はあると思いますが、町長の考えを伺います。

併せて、本町に譲渡されていない鉄橋などの取り扱いは今後どのような計画が予定されているか伺います。

以上で本席からの質問を終わります。

13 番 八重樫 龍介 議員の御質問にお答えします。

初めに、旧 J R 岩泉線の駅舎の活用についてありますが、議員御案内のとおり、平成22年の土砂崩壊による列車脱線事故後、地域住民等が団結し、存続運動を展開してまいりましたが、願い叶わず惜しまれながら廃線となった経緯があり、その後は、鉄道ファンや、名城大学の御協力により、駅舎の一部が活用されております。

町では、令和元年度に、レンタサイクルの整備や、利用者向けサイクルマップを作成し、龍泉洞からうれいら通り商店街や、旧 J R 岩泉駅方面への周遊を促すべく、町観光協会と事業展開を図ってまいりましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、周遊促進を自粛せざるを得ない状況となっているところであります。

現在は、情勢も変化し、再開の見通しが立ちつつあることから、来年度に向けて、多くの関係者の声を聞きながら、町観光協会と連携し、事業再開を検討してまいります。

次に、旧 J R 岩泉線のレールの活用についてであります。様々な活用の可能性があるものと存じますので、議員御提案の内容も含め、調査研究を進めてまいりたいと考えております。

また、本町に譲渡されていない鉄橋につきましては、J R 側が管理しており、今のところ、具体的な取扱いは伺っておりませんが、安全管理上など、撤去することが妥当と認められる場合には、J R 側の費用負担により撤去することとなっております。

いずれにいたしましても、旧 J R 岩泉線の残された財産につきましては、本町の貴重な資源の一部として、今後とも効果的な利活用を検討してまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

以上で答弁を終わります。